

2011 SUPER GT Rd,7

吉田広樹
〈オートポリス〉

S-GTが2年ぶりの開催となる九州オートポリス。このサーキットはアップダウンの激しいサーキットでどここのセクションにセッティングを合わせるかが大きなポイントになります。昨年はオートポリスでGTが開催されなかったため、チームも初のレースとなり過去のデータもなく、また私も過去に一度しかレース経験がないサーキットだったので、どれだけ短い間にセッティングも含めてつめていけるかがチームの課題として挑みました。

9月30日 フリー走行 DRY

この日は朝から天候も良く、完全なDRYコンディションでフリー走行がスタートしました。セッション開始と共にコースインし、持ち込んだセッティングの確認を行います。まずはコースになれるためにも5周ほど周回を重ね、すぐにメルビン選手に交代します。メルビン選手にも5周アタックしてもらい再度私にドライバー交代し、マシンのセットアップを開始します。そこから徐々にタイムを上げていくのですが、トップとのタイム差も大きかったことから当初のプランを変更し、コンパウンドの違うタイヤでもセッティングを進めていくことになりました。しかし残り時間も少なくなり、そのタイヤをメルビンさんにも確認してもらうため、アタックは出来ませんでした。メルビン



選手に残り時間を走ってもらうことになりました。最終的に154,196というタイムで18番手でフリー走行を終えることとなりました。

公式予選 DRY

今回の予選も前回同様スーパーラップ方式だったため、1回目の予選でトップ10に残らなければなりません。フリー走行後セッティングを変更したため計測1周だけ私が確認。メルビン選手にドライバー交代しアタックしてもらいます。最後の300クラスだけの予選中に私がNEWタイヤでアタックを行う予



THUNDER
RACING ASIA

<NO.1>

2011 SUPER GT Rd,7

吉田広樹
〈オートポリス〉



定でしたが、ダンパーのトラブルも発生しメルビン選手も中々タイムを上げることが出来ません。そのまま300クラスの占有時間となりましたがチームで話し合い、メルビン選手のタイムアタックを優先することとなりました。その結果私はアタックすることが出来ず予選不通過となったため、決勝は最後尾からのレースとなってしまいました。

10月2日 決勝レース DRY 19位/21台中

決勝日の朝は曇り空で気温・路面温度が低い中、最後のフリー走行がスタートしました。通常日曜日のこの時間は決勝レースを想定してテストを行うのですが私たちは予選不通過だったため、このフリー走行で基準タイムをクリアしなければなりません。まずはフリー走行開始と共に私がコースインし、アタックを開始します。路面温度も低かったことから計測2周目に合わせてアタックを行い、1'54,117というタイムで4番手につけます。その後すぐにメルビン選手に交代しアタックを続けてもらいます。最終的に8番手までポジシ

ョンは落ちてしまいましたが、2人とも基準タイムをクリアし、最後はもう一度私に交代し決勝セットの確認を行ってフリー走行を終えることとなりました。この日は午後になっても気温や路面温度があまり上がってこない天候だったためタイヤの内圧やセッティングもアジャストしてグリッドにつきます。このチームはオートポリスでのレースが初となるのでタイヤの磨耗などが予想しずらく、レース中に対応できるようミーティングを行いレースに挑みます。そしてフォーメーションラップを終え、250キロのレースがスタートしました。スタート直後の1コーナーのポジション取りが上手いき、一気に4つポジションを上げ16番手に浮上します。しかしその後も各コーナーでポジション争いが激しく、第2ヘアピンでラインを塞がれてしまい一気に4台にパスされてしまいました。そこからは前のマシンに仕掛けながらも、後ろからのアタックを凌ぐレースが10周ほど続きます。前のマシンに比べ後半の登り区間でアドバンテージがありオーバーテイクを試みるのですが、パッシング出来た時には前のマシンとの差も大きく開いてしまいました。そこからはひたすらプッシュを続け前の集団に少しずつ追いついていたのですが、レースも中盤に入った頃からマシンがピットインし始めます。そんな中チームにタイヤの



THUNDER
RACING ASIA

<NO.2>

2011 SUPER GT Rd,7

吉田広樹
〈オートポリス〉

状況を伝えながら淡々と走り続け、8番手までポジションを上げた30周目にピットインし、メルビン選手へとドライバー交代しました。この際少しでもピット時間を短縮するため、タイヤの磨耗を確認しながら走行した結果、タイヤ交換なしでメルビン選手に走ってもらうこととなりました。タイヤ無交換の結果ピットアウト後は14番手でコースに復帰することが出来ました。そこからメルビン選手も滑りやすいタイヤでプッシュしてくれたのですが、最終的に19番手でチェッカーを受けることとなりました。今までレース中はいつもアンダーステアがひどかったのですが、レース中のマシンバランスとしては今までで一番走りやすいセットアップが出来たと思います。しかし全体的なレベルとしてまだまだな部分ばかりなので、予選のセッティングを始め、今回のレースセットも活かして最終戦の茂木に挑みたいと思います。次の茂木でシリーズとしては最終戦となりますが、チーム一丸となって来年に繋がるようなインパクトあるレースをしたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing
吉田 広樹



<NO.3>